

大学院法学研究科・新入生歓迎セミナー

## 大学院での研究生生活を考える

日時 2010年6月25日(金) 18時15分～19時30分

場所 12号館地下1階 第3・4会議室

講師 尾内隆之 氏 (流通経済大学法学部専任講師 政治過程論・科学技術政策・環境政策、  
立教大学コミュニティ福祉学部兼任講師(環境政策))

鵜澤 剛 氏 (金沢大学大学院法務研究科准教授 憲法・行政法)

大学院での研究生生活とはどのようなものか、改めて考えてみたいと思います。講師は、おふたりとも、立教大学大学院法学研究科ご出身の新進気鋭の研究者です。新入生だけでなく、大学院在學生、あるいは大学院進学希望の学部学生の参加も歓迎いたします。大学院在學生につきましても、お話と質疑応答のあと、簡単な懇親会を行う予定です。ぜひこの機会に、大学院での研究のあり方について考えてみてください。

(今年度修士課程及び博士課程に入学・進学の學生は、原則参加でお願いします。)

### <講師紹介>

○尾内隆之(おない・たかゆき)氏

1968年12月生まれ。東北大学大学院文学研究科修士課程修了。出版社勤務ののち、立教大学大学院法学研究科にて政治学を学ぶ。立教大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程満期退学。立教大学法学部助教をへて、現職。最近の論文に、「日本における熟議=参加デモクラシーの萌芽」小川有美編『ポスト代表制の比較政治』早稲田大学出版部(2007年)、「だれが原子力政策を決めるのか」『科学』(77巻11号、2007年)岩波書店、「未来を“かたる”ことばの諸様相—核燃料サイクル政策論のために—」『科学』(80巻2号、2010年)岩波書店などがある。

○鵜澤 剛(うざわ・たけし)氏

1978年1月生まれ。明治学院大学卒業。立教大学大学院法学研究科比較法専攻博士課程後期課程満期退学。立教大学法学部助教を経て、現職。立教大学助教のあいだに「博士(法学)」の学位取得(論文題目:憲法訴訟と実体法)。最近の論文に、「憲法訴訟の新たな可能性」立教法学71号283-307頁(2006年)、「行政法における法律行為と法律関係、そして訴訟類型の配分」立教大学大学院法学研究36号1-65頁(2007年)、クラウス・シュテルン(著)、赤坂正浩・片山智彦・川又伸彦・小山剛・高田篤(編訳)『ドイツ憲法I 総論・統治編』10-19頁(信山社、2009年)、「制度複合体としての憲法」立教法学80号246-279頁(2010年)などがある。